



インストールガイド

---

# SAP Control Center 3.3

ドキュメント ID：DC01766-01-0330-01

改訂：2013 年 11 月

Copyright © 2013 by SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.

このマニュアルの内容を SAP AG の明示的許可を得ずに、いかなる手段によっても、複製、転載することを禁じます。ここに記載された情報は事前の通知なしに変更されることがあります。

SAP AG およびディストリビュータが販売しているソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダー独自のソフトウェアコンポーネントが含まれているものがあります。国内製品の仕様は変わることがあります。

これらの資料は SAP AG および関連会社 (SAP グループ) が情報のみを目的として提供するものであり、いかなる種類の表明または保証も行わないものではなく、SAP グループはこの資料に関する誤りまたは脱落について責任を負わないものとします。SAP グループの製品およびサービスに関する保証は、かかる製品およびサービスに付属している明確な保証文書がある場合、そこで明記されている保証に限定されます。ここに記載されているいかなる内容も、追加保証を構成するものとして解釈されるものではありません。

ここに記載された SAP および他の SAP 製品とサービス、ならびに対応するロゴは、ドイツおよび他の国における SAP AG の商標または登録商標です。その他の商標に関する情報および通知については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx#trademark> を参照してください。

# 目次

<b>SAP Control Center について</b> .....	1
<b>SAP Control Center のインストールタスクフロー</b> .....	3
<b>インストールの計画</b> .....	5
ライセンスの取得 .....	5
システムの稼働条件 .....	5
SAP Control Center ネットワークポート .....	7
インストールの考慮事項 .....	8
アップグレードからのロールバックの準備 .....	9
<b>インストール前の作業</b> .....	11
<b>SAP Control Center のインストール</b> .....	15
SAP インストーラを使用したインストール .....	15
応答ファイルを使用したインストール .....	19
応答ファイルの作成 .....	19
無人 (サイレント) モードでのインストール .....	21
アンインストール .....	23
<b>SAP Control Center のアップグレード</b> .....	25
シングルトン SAP Control Center のアップグレード .....	25
共有ディスクインスタンスのアップグレード .....	27
<b>サードパーティのレプリケートデータベース用の JDBC</b>	
ドライバのインストール .....	31
<b>SAP Control Center の起動と停止</b> .....	33
Windows での ODBC ドライバの登録 .....	33
Windows での SAP Control Center の起動と停止 .....	33
UNIX での SAP Control Center の起動と停止 .....	37
<b>インストール後の設定</b> .....	43
SSL 証明書の設定 .....	44

## 目次

パスワードの設定またはデフォルトログインアカウントの無効化 .....	46
パスワードの暗号化 .....	47
インクリメンタルバックアップの有効化 .....	48
SAP Control Center の設定 .....	49
インストールのトラブルシューティング .....	51
索引 .....	57

# SAP Control Center について

SAP® Control Center は、Web ブラウザベースのクライアントを使用して、SAP データベース製品をモニタおよび管理する統合ソリューションを提供するサーバアプリケーションです。

SAP Control Center は、大規模な SAP エンタープライズサーバのリアルタイムパフォーマンス、ステータス、および可用性モニタリングのための、単一の包括的な Web 管理コンソールです。SCC は、モジュール方式のアーキテクチャ、機能豊富なクライアント管理コンソール、エージェント、共通サービス、および SAP データベース製品の管理および制御のためのツールを組み合わせています。履歴モニタリング、スレッシュホールドベースのアラートおよび通知、アラートベースのスク립ト実行、およびパフォーマンスおよび使用の傾向を識別するためのインテリジェントツールが含まれます。

SCC サーバは、以下をサポートできます。

- 同時ログインできるユーザは最大 10 人まで
  - 最大 250 までのリソース (サーバ) のモニタ
- 実際には、1 つの SCC サーバからモニタできるリソースの数は、CPU、メモリ、ディスク領域などのシステムリソースの可用性、スケジュールされているデータ収集の数、データ収集の間隔、SCC の作業の種類 (管理またはモニタ) などの多くの要因によって制限されます。

---

**注意：** SCC 3.3 専用のインストーラはありません。SCC は、管理対象製品のインストーラを使用してインストールガイドとリリースノートとともにインストールします。ただし、管理対象製品のインストーラから SCC をインストールする際、このガイドで説明する情報も必要になります。

---



# SAP Control Center のインストールタスクフロー

作業の流れには、計画、インストール、アップグレードのための、すべての作業が含まれています。最も適切な作業の流れを選択してください。

ヒント：このトピックを印刷して、チェックリストとして使用してください。

SCC の初回インストール	新しいバージョンへのアップグレード
インストールの計画 (5 ページ)	インストールの計画 (5 ページ)。アップグレードからのロールバックの準備 (9 ページ)を含む。
インストール前の作業 (11 ページ)	インストール前の作業 (11 ページ)
SCC のインストール: <ul style="list-style-type: none"> <li>対話型の GUI モードまたはコンソールモード (15 ページ)</li> <li>応答ファイルを使用するサイレントモード (19 ページ)</li> </ul>	SCC のインストール: <ul style="list-style-type: none"> <li>対話型の GUI モードまたはコンソールモード (15 ページ)</li> <li>応答ファイルを使用するサイレントモード (19 ページ)</li> </ul>
	SAP Control Center のアップグレード (25 ページ) SAP Control Center のアップグレード (25 ページ)
複写環境で <b>rs_ticket</b> を使用してサードパーティのレプリケートデータベースへの遅延を測定する場合は、サードパーティレプリケートデータベース用の JDBC ドライバをインストールする (31 ページ)	複写環境で <b>rs_ticket</b> を使用してサードパーティのレプリケートデータベースへの遅延を測定する場合は、サードパーティレプリケートデータベース用の JDBC ドライバをインストールする (31 ページ)
SSL 証明書の設定 (44 ページ)	SSL 証明書の設定 (44 ページ)
SAP Control Center の設定 (49 ページ)	SAP Control Center の設定 (49 ページ)
パスワードの設定またはデフォルトログインアカウントの無効化 (46 ページ)	パスワードの設定またはデフォルトログインアカウントの無効化 (46 ページ)
	SAP Control Center の以前のバージョンをアンインストールする (23 ページ)



# インストールの計画

環境を準備してから、インストールを行います。

- 企業が必要とするさまざまな製品モジュールプラグインを含む SAP® Control Center サーバをインストールするコンピュータを指定します。1つのサーバで企業全体にサービスを提供することもよくあります。「インストールの考慮事項」(8 ページ)を参照してください。
- 「システムの稼働条件」(5 ページ)を参照して、選択したコンピュータが計画している用途に合っていることを確認します。
- 「インストール前の作業」(11 ページ)と「SAP インストーラを使用したインストール」(15 ページ)で、必要な決定事項を確認してください。

## ライセンスの取得

---

SAP Control Center のライセンスは、SAP Control Center が管理する製品 (Adaptive Server、SAP® Sybase IQ、SAP Sybase Event Stream Processor、Replication Server、Replication Agent、Mirror Replication Agent、または Replication Server Data Assurance オプションを含む) の有料ライセンスを有しているお客様には無料で提供されます。評価ライセンスも入手可能です。

ライセンスを取得する必要はありません。インストーラには次のライセンスオプションがあります。

- [SAP Control Center のライセンス取得済みコピーのインストール] – SAP Control Center で管理される製品の有料ライセンスをお持ちの場合は、このオプションをインストールします。永久 (期限なし) ライセンスの下に SAP Control Center がインストールされます。
- [SAP Control Center の評価] – SAP Control Center で管理される製品の有料ライセンスをお持ちでない場合、または SAP Control Center の永久コピーをインストールしない場合は、このオプションを選択します。評価ライセンスは、30 日後に有効期限が切れます。

## システムの稼働条件

---

SAP Control Center (SCC) をインストールする前に、システムのすべての稼働条件がインストールシナリオおよび用途に一致していることを確認します。管理対象サーバと同じホストに SCC をインストールする場合、このホストは、管理対象サーバの要件に加えてここに示す要件も満たしている必要があります。

## インストールの計画

SAP Control Center サーバマシンについて、SAP では以下の最低限の仕様をおすすめします。

- 2.4GHz プロセッサ x 2
- 4GB の RAM

表 1 : SAP Control Center Server の稼働条件

SCC サーバのプラットフォーム	オペレーティングシステム
x86/32 ビット版	Windows 7 Windows 8 Windows Server 2008 R2 Red Hat Enterprise Linux 5、6 SUSE Linux Enterprise 10、11 SP1
x86/64 ビット版	Windows 7 Windows 8 Windows Server 2008 R2 Windows Server 2012 Red Hat Enterprise Linux 5、6 SUSE Linux Enterprise 10、11 SP1
Solaris SPARC 64 ビット版	Solaris 10、11
Solaris-64 (x64)	Solaris 10、11

### Java 用 OS パッチ要件

インストーラを実行する前に、SAP Java Runtime Environment (JRE) 7.1 に必要なオペレーティングシステムのパッチをインストールします。(インストーラに含まれているので、JRE のインストールまたはアップグレードは必要ありません。)

SAP JRE 要件については、「SAP ノート 1367498:<https://service.sap.com/sap/support/notes/1367498>SAP JVM のインストールの前提条件」を参照してください。

**注意：** Windows については、SAP Note 1367498 に記載されている Microsoft Visual C++ パッチは間違っています。必要なパッチは、Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ ATL のセキュリティ更新プログラム (<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=14431>) です。

### ブラウザの要件

SCC 3.3 は、Flash Player 10.1 以降を搭載した次のブラウザをサポートしています。

- Internet Explorer 8 以上
- Firefox 3.6 以上
- Chrome 20.x 以上

#### 必要なディスク領域

インストール後に必要なディスク領域は、SCC によるモニタ対象のサーバの数、および収集するパフォーマンスのデータ量によって異なります。履歴パフォーマンスデータのリポジトリの増大に伴い、SCC で使用するディスク領域も増えます。SAP 記憶領域を適時に追加できるように、ディスクの使用状況と増大の傾向を注意してモニタすることをおすすめします。

## SAP Control Center ネットワークポート

インストール先のマシンで使用するポートが SAP Control Center で使用するポートと競合していないことを確認します。

SCC では、さまざまなサービスに TCP ポートを使用します。別のアプリケーションが次にリストしたポートのいずれかを使用している場合、SCC の起動に失敗することがあります。また、サービスが正しく機能しないこともあります。

**注意：** SAP Control Center がインストールされている場合、**scc --info ports** を使用して (アプリケーションまたはサーバで) 現在使用されている SCC ポートをリストすることができます。SCC ポートを再指定するには、**scc** コマンドの **--ports** オプションを使用します。詳細については、SAP Control Center オンラインヘルプを参照してください。

ポート名	デフォルトのポート番号	必須	説明
RMI	9999	はい	RMI プロトコルアクセスに使用する SCC サーバポート。
HTTP	8282	はい	サーバへの HTTP Web アクセスに使用する SCC サーバポート。すべての HTTP トラフィックは、セキュア HTTP チャンネルにリダイレクトされる。
HTTPS	8283	はい	サーバへのセキュア HTTP Web アクセスに使用する SCC サーバポート。すべての HTTP トラフィックは、セキュア HTTP チャンネルにリダイレクトされる。

ポート名	デフォルトのポート番号	必須	説明
Database	3638	はい	SCC サーバリポジトリデータベースポート。複数のサービスによって使用される。
Messaging Service	2000	はい	SCC サーバのメッセージングポート。
Tds	9998	いいえ	Tabular Data Stream (TDS) プロトコルアクセスに使用する SCC サーバポート。
Jini Http	9092	いいえ	Jini 検出サービス用の Jini HTTP ポート。
Jini Rmid	9095	いいえ	Jini 検出サービス用の Jini RMID サーバポート。
Ldap	389	いいえ	LDAP 検出サービスアダプタポート。

## インストールの考慮事項

問題を回避するには、SAP Control Center 配備を計画する際、ハードウェア要件、モニタ制限、およびネットワークのセキュリティを考慮に入れてください。

### パフォーマンス

SAP Control Center を配備する前に、SCC でモニタするサーバの数を検討します。SCC サーバは最大 250 個までのリソースをモニタできます (1 台の SCC サーバが効果的にモニタできるリソースの数は、モニタ対象のリソースの複雑度、データ収集の頻度、SCC を同時に使用するユーザの数、および SCC を実行しているホストのハードウェアの設定によって異なります)。250 個を超えるリソースをモニタするには、追加の SCC サーバをインストールし、リソースをそれらの中で分散させます。モニタリングの制限は、同じマシンに SCC を管理対象サーバとしてインストールするか、専用マシンにインストールするかにかかわらず、適用されます。

また、SAP Control Center のインストール場所も検討してください。SCC は、モニタ対象の各サーバのパフォーマンスデータを収集し、保存することができます。データ収集には、CPU サイクル、ディスク領域、およびネットワークリソースを多量に消費することがあるため、SCC は同じホストマシンを共有するその他のサーバのパフォーマンスに影響する可能性があります。そのため、SCC サーバを運用環境の管理対象サーバとして同じホストにインストールする前に、慎重に計画することをおすすめします。

ただし、次の状況では SCC および管理対象サーバの統合インストールにより十分なパフォーマンスが提供されます。

- コンセプトプロジェクトのテスト、評価、および証明
- SCC の使用頻度が少ないシナリオ
- ホストマシンのリソースが、SCC と管理対象サーバの要件を統合したものを満たすまたは超える場合

管理対象サーバと同じマシンに SCC をインストールする場合は、SCC と管理対象サーバの両方のシステム稼働条件を参照し、両方の製品に対して十分な CPU、RAM、ディスクおよびネットワークリソースがホストマシンにあることを確認してください。単一の管理対象サーバで必要なリソースは、サーバの設定によって大幅に異なります。これは SCC で必要なリソースについても同様です。通常、SCC ではより複雑なサーバを管理するためにより多くのリソースを使用します。SCC では、頻度の高いデータ収集を実行するように設定されている場合にも多くのリソースを使用します。

SAP Control Center と管理対象サーバを同じマシンにインストールし、後でそれらを分離する必要がある場合は、Sybase サポートセンタにお問い合わせください。

#### セキュリティ

SAP Control Center は、管理対象サーバとの通信時、暗号を使用します。ただし、SAP では、安全なネットワーク環境で SCC を実行することをおすすめします。

## アップグレードからのロールバックの準備

---

SAP Control Center はダウングレードをサポートしていません。SCC インストールディレクトリをバックアップして、適宜、前のリリースを手動でリストアできるようにしてください。

この手順は、SAP Control Center 3.3.x から 3.3 シリーズ内の新しいバージョンへのアップグレードにのみ適用されます。これは、これらのバージョンが同じ SCC-3\_3 ディレクトリにインストールされるためです。SCC 3.2 または SCC 3.1 からのアップグレードの場合は、ロールバックの準備を行う必要はありません。古いインストールディレクトリをそのまま維持し、そこから SCC を実行し続けることができます。SCC の新しいバージョンと古いバージョンは、それぞれに別々のポートを割り当てていない限り、同時に実行しないようにしてください。

1. 古いバージョンの SCC インストールディレクトリ (SCC-3\_3、SCC-3\_2、または SCC-3\_1) を、親 Sybase または sap ディレクトリ外にコピーします。
2. SCC の新しいバージョンをインストールして、このガイドで説明されている手順に従って、アップグレードを実行します。

## インストールの計画

3. アップグレード実行後、ロールバックを行う必要がある場合は、次の手順に従います。
  - a) SCC の新しいバージョンをアンインストールします。「アンインストール (23 ページ)」を参照してください。
  - b) 環境変数をリセットするには、ロールバックするバージョンに対して SCC インストーラを実行します。古いインストールディレクトリをリストアすると、インストーラに入力した設定は上書きされます。インストーラから SCC を起動しないでください。
  - c) バックアップしたインストールディレクトリをファイルシステムの元の場所にコピーします。

# インストール前の作業

インストールの準備をします。

SAP Control Center では、Web ベースの多層アーキテクチャを採用しています。このアーキテクチャでは、企業内のサポートされるすべての SAP データベースサーバを複数の SCC クライアントが少数の SCC サーバ (1 台しか必要のない場合もよくあります) を使用して、モニタおよび管理できます。SCC のリモートコマンドおよび制御エージェントは、これを必要とする各管理対象サーバとともにインストールされます。SCC クライアントは、Web ブラウザで実行される機能豊富なインターネットアプリケーションです。これは、バージョン 10.x 以降の Adobe Flash Player プラグインを必要とします。

1. 配備の必要がある各 SCC サーバを実行するホストを指定します。  
これらは、典型的な SCC 環境です。

**図 1:** このシナリオでは、管理 UI を提供する SAP Control Center サーバは専用ホストにインストールされます。SCC のリモートコマンドおよび制御エー

## インストール前の作業

エージェントは、各管理対象サーバとともにインストールされます。Web クライアントは SCC ソフトウェアを必要としません。

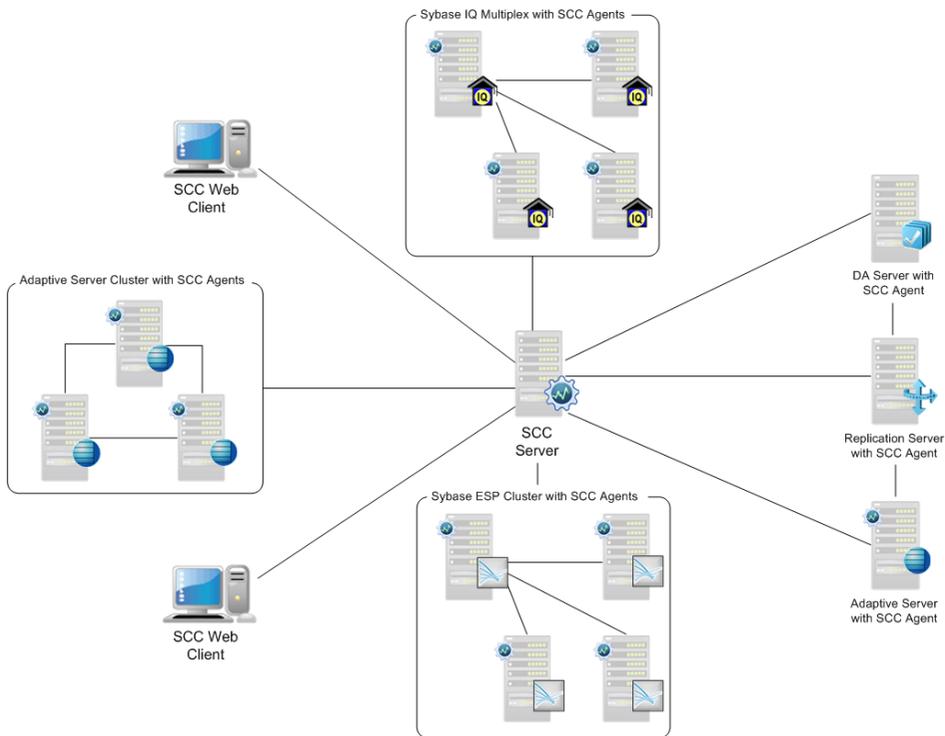
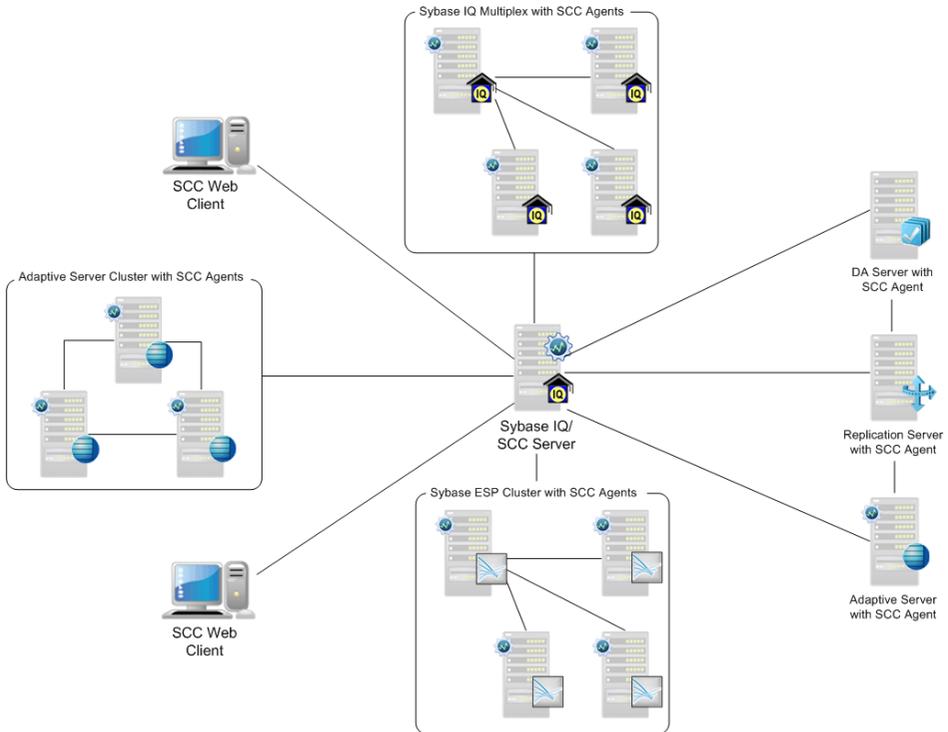


図 2: このシナリオでは、管理 UI を提供する **SAP Control Center** サーバは、管理対象サーバとホストを共有します。(ここでは、SCC ホストを共有する管理対象サーバは **SAP Sybase IQ** になっていますが、タイプは何でも構いません。)他の管理対象サーバは SCC のリモートコマンドおよび制御エージェント

とともにインストールされます。**Web クライアントは SCC ソフトウェアを必要としません。**



2. SCC を実行するコンピュータがシステムの稼働条件 (5 ページ) を満たしていることを確認します。
3. SCC を実行する各コンピュータが、管理対象のサーバ、およびクライアントワークステーションへのネットワーク接続が良好であることを確認してください。
4. 次の配備上の問題も考慮してください。
  - ネットワーク遅延の最小化 - モニタ対象のサーバの近くおよび SCC Web クライアントを実行しているワークステーションの近くに SCC をインストールすると、パフォーマンスが向上します。
  - 統合された SCC 環境 - 中央のロケーションに SCC サーバをインストールすることを検討します。必要な SCC 製品モジュールプラグイン (SCC for Adaptive Server、SCC for Data Assurance、SCC for ESP、SCC for Replication、または SCC for Sybase IQ) を中央のインストールにすべて追加します。これにより、SCC インストールの 1 つからサーバを管理およびモニタできるので、複写環境では特に便利です。

## インストール前の作業

- 管理とセキュリティ - 一部のサーバで他のサーバよりも厳重にデータを保護することなどにより、企業内のさまざまな部分で異なるレベルの制御を実行できます。
5. 特に UNIX への展開を計画している場合は、他の担当者に準備への協力を求めます。UNIX サーバ上で SCC のセキュリティを設定するには、root 権限が必要です。
  6. 既知の問題や SAP Control Center ヘルプに含めることができなかった最新の変更などについて SAP Control Center のリリースノートを確認します。
  7. SAP Java Runtime Environment (JRE) 7.1 に必要なオペレーティングシステムのパッチがあれば、これをインストールします。  
詳細については、「システムの稼働条件」(5 ページ)を参照してください。

---

**注意：** インストーラに含まれているので、JRE のインストールまたはアップグレードは必要ありません。

---

8. ファイルシステム上の SCC のインストール場所を決定します。非 ASCII 文字、スペース、一重引用符または二重引用符が名前に含まれているディレクトリにはインストールしないでください。ファイルシステムにすでに Sybase または sap ディレクトリが含まれている場合は、できるだけそこに SCC をインストールするようにしてください。

Adaptive Server クラスタ、SAP Sybase Event Stream Processor クラスタ、または SAP Sybase IQ マルチプレックス環境に SCC をインストールする場合は、共有ディスクモードの使用を検討してください。共有ディスクモードであれば、単一の SCC インストールから複数の SCC インスタンス (SCC サーバと SCC エージェントの任意の組み合わせ) を実行できます。詳細については、SCC オンラインヘルプ (<http://help.sap.com/database>) を参照してください。

# SAP Control Center のインストール

選択した方法を使用して SCC をインストールします。

## 前提条件

サーバに対するインストールの計画とインストール前の作業を実行します（「アップグレードからのロールバックの準備」（9 ページ）を含む）。

## 手順

SAP Control Center は次の 2 つの方法でインストールできます。

- 対話型の SAP インストーラを GUI モードまたはテキストベースのコンソールモードで使用します。「SAP インストーラを使用したインストール」（15 ページ）を参照してください。
- サイレントモード（無人）を使用します。このモードでは、インストーラのプロンプトに対する回答を提供する応答ファイルを作成します。「応答ファイルを使用したインストール」（19 ページ）を参照してください。

## SAP インストーラを使用したインストール

---

インストーラをダウンロードし、SAP Control Center サーバを GUI モードまたはコンソールモードでインストールします。インストーラは、SCC ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをそのディレクトリにインストールします。

## 前提条件

- インストール前の作業を実行します。
- アップグレードする場合は、以前のバージョンの SAP Control Center を停止してから、新しいバージョンをインストールすることをおすすめします。インストーラは HTTP、HTTPS、および RMI の各ポートを設定する際、指定されたポート番号が使用中かどうかを確認します。新しいバージョンをインストールする際に、以前のバージョンの SCC が実行されている場合は、両方のバージョンで同じポートを使用することはできません。SCC の 2 つのバージョンを同時に実行する場合にのみ異なるポートを設定しますが、これは推奨されません。

### 手順

SAP Control Center のインストーラは、Windows と UNIX (Linux と Solaris) の両方のオペレーティングシステムで GUI モード (グラフィックダイアログとして) またはテキストベースのコンソールモードで実行されます。

1. SCC (Adaptive Server、Data Assurance、Replication 製品、SAP Sybase Event Stream Processor、または SAP Sybase IQ) で管理される製品に SAP Control Center が付属していた場合は、インストーラをメディアからインストール先のマシンにコピーします。

SAP Control Center は Web からダウンロードできます。Sybase とのサポート契約期限がまだある場合は、<http://downloads.sybase.com> にアクセスして、SCC で管理する製品のインストーラをダウンロードしてください。(SCC は管理対象製品インストーラに含まれています。)

SAP とのサポート契約がある場合:

- a) SAP Software Download Center (<http://service.sap.com/swdc>) にアクセスします。
  - b) SAP Download Manager をダウンロードします。
  - c) Download Center に戻って、[Installations and Upgrades] を選択します。
  - d) A ~ Z のインデックスから、SCC で管理する製品を選択します。(SCC は管理対象製品インストーラに含まれています。)
  - e) 管理対象製品のインストーラをダウンロードして、これを使って SCC をインストールします。
2. 必要に応じて、インストーラパッケージを解凍します。
  3. (Windows) Windows のバージョンをインストールする場合は、管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
  4. (Windows) 64 ビット版の Windows 7、Windows 8、Windows 2008、または Windows Server 2012 に 32 ビット版の SCC をインストールする場合、インストーラの互換モードを Windows XP に設定します。

---

**ヒント:** このような追加手順を回避するには、64 ビット版の Windows インストーラを使用してください。

---

- a) `setup.exe` または `setupConsole.exe` を右クリックします。
  - b) [プロパティ] を選択します。
  - c) [互換性] タブで、[Windows XP] 互換モードを選択します。
  - d) [OK] をクリックします。
5. (Windows) Windows 7、Windows 8、Windows 2008、または Windows Server 2012 でインストールする場合、インストーラで [管理者として実行] オプションを設

定します。すでに管理者権限を持っている場合もこれを行う必要があります。

- a) setup.exe または setupConsole.exe を右クリックします。
- b) [管理者として実行] を選択します。

6. (UNIX) SCC を GUI モードで UNIX オペレーティングシステムにインストールする場合、\$DISPLAY 環境変数が、インストーラを表示するマシンに設定されていることを確認します。

この変数を正しく設定しないと、インストーラはテキストベースのコンソールモードで表示されます。

7. 次のインストーラを起動します。

オペレーティングシステム	GUI モード	コンソールモード
Windows	setup.exe を開きます	setupConsole.exe -i console を実行します
UNIX	setup.bin を実行します	setup.bin -i console を実行します

**注意：** インストーラの起動で問題が発生する場合は、SAP Java Runtime Environment (JRE) バージョン 7.1 に必要なオペレーティングシステムパッチが適用されていることを確認してください。

8. SAP Control Center のソフトウェアライセンスの種類を選択します。ライセンスされたコピーのインストールを選択した場合は、ライセンスを取得する必要はありません。
9. 適切な地域を選択し、ライセンス条件を読み、[指定したインストール地域における Sybase のライセンス条件に同意します] を選択します。
10. SCC をインストールするディレクトリを選択します。

既存の sybase ディレクトリがある場合、このディレクトリがデフォルトのインストールディレクトリになります。このディレクトリがない場合、デフォルトディレクトリは次のとおりです。

- Windows - C:\¥sap
- UNIX - /opt/sap

11. 既存のディレクトリへのインストールに関する警告メッセージが表示されたら、[次へ] をクリックします。

12. 次のインストールの種類を選択します。

- [フル]- SCC サーバのコア機能および使用可能なすべての製品モジュールをインストールします。
- [カスタム]- インストールする SCC 製品モジュールを選択できます。SCC コア機能は常にインストールされます。

---

**注意：** アップグレードの場合: 以前のバージョンの SAP Control Center を使用してリソース (Adaptive Server、Data Assurance、SAP Sybase Event Stream Processor、SAP Sybase IQ、Replication Server、Replication Agent、Mirror Replication Agent) の複数のタイプを管理およびモニタした場合は、同じセットの製品モジュールプラグインを新しいバージョンの SCC にインストールします。手順 1 で説明されているとおり、SCC 製品モジュールプラグインを含む他の管理対象製品のインストーラをダウンロードします。

---

13. インストール前の要約画面で、選択したインストール対象機能を確認し、インストールを完了するのに必要なディスク領域があることを確認します。インストールを開始するには、[インストール] をクリックします。
14. [HTTP ポートの設定] 画面で、指定された HTTP ポートと HTTPS ポートがこのマシン上のその他のアプリケーションおよびサービスが使用しているポートと競合しないことを確認します。デフォルトを受け入れる代わりに独自のポート番号を入力する場合は、それを書き留めておいてください。SCC にブラウザを接続するときにポート番号が必要になります。  
アップグレードのインストールでは、旧バージョンと新バージョンを同時に実行することが決してない場合を除き、HTTP および HTTPS ポート番号を、SCC の旧バージョンに使用したポート番号と同じにすることはできません。
15. [RMI ポートの設定] 画面で、指定された RMI ポートがこのマシン上のその他のアプリケーションおよびサービスが使用しているポートと競合しないことを確認します。
16. [管理ログインの設定] 画面で、SCC 管理ログインアカウント sccadmin のパスワードを設定します。アカウント名も変更できます。  
パスワードは 6 文字以上でなければなりません。
17. [リポジトリパスワードの設定] 画面で、SCC リポジトリの SQL Anywhere データベースに dba アカウントのパスワードを入力します。  
パスワードは 6 文字以上でなければなりません。
18. [設定の要約の確認] 画面で、設定が正しいことを確認します。  
設定を変更するには、[前へ] をクリックします。
19. このインストールの複数の SCC サーバまたはエージェントを実行する場合は、[SCC 共有ディスクの有効化] 画面で [はい] をクリックし、共有ディスクモードを有効にします。[はい] を選択したら、次の画面で最初の SCC インスタンス (SCC エージェント) の名前を指定します。

インスタンスの作成と設定には、数分かかる場合があります。

20. (Windows) [Windows Service 設定] 画面で [はい] をクリックし、Windows サービスとして SCC を設定します。

SAP では、サービスは運用環境で設定することをおすすめします。[いいえ] を選択した場合、SCC を手動で起動する必要があります。

21. インストールの完了時に SCC を起動するには、[SAP Control Center の起動] 画面で [はい] を選択します。

SCC の起動には数分かかる場合があります。

22. [インストールが完了しました] 画面で結果を確認し、[完了] をクリックします。

### 次のステップ

共有ディスクモードを使用している場合、以下の情報については SAP Control Center のマニュアルを参照してください。

- SCC エージェントとサーバのインスタンスの配備と管理の手順について
- インスタンスの配備によって SCC インストールのディレクトリ構造がどのように変化するかについて

## 応答ファイルを使用したインストール

---

インストール応答ファイルを作成、使用することにより、サイレントモードで最低限のユーザ入力で SAP Control Center をインストールします。サイレントモードは複数のマシンに SCC をインストールしたり、ハードウェア障害の発生時に反復できるインストールを設定したりするときに便利です。

### 応答ファイルの作成

インストール時の応答を応答ファイルに記録するか、サンプル応答ファイルをコピーします。いずれの場合も、ファイルを編集して、応答をカスタマイズします。

#### 前提条件

アップグレードする場合は、以前のバージョンの SAP Control Center を停止してから、新しいバージョンをインストールすることをおすすめします。インストーラは HTTP、HTTPS、および RMI の各ポートを設定する際、指定されたポート番号が使用中かどうかを確認します。新しいバージョンをインストールする際に、以前のバージョンの SCC が実行されている場合は、両方のバージョンで同じポートを使用することはできません。SCC の 2 つのバージョンを同時に実行する場合にのみ異なるポートを設定しますが、これは推奨されません。

### 手順

GUI モードまたはコンソールモードでインストールするときに応答ファイルを作成するには、`-r` コマンドライン引数を使用します。`-r` 引数を指定することで、インストールウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストールウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。応答ファイルはテキストファイルです。応答内容を編集して変更することができます。

代わりに、SAP では `sample_response.txt` というサンプル応答ファイルも用意しています。このファイルは、SAP Control Center インストーラのイメージがダウンロードされるディレクトリにあります。次のように応答ファイルを作成する代わりに、サンプル応答ファイルをコピーし編集することができます。オプションはファイルに記述されています。次のパスワードプロパティの値を指定する必要があります。

- CONFIG\_SCC\_CSI\_SCCADMIN\_PWD
- CONFIG\_SCC\_REPOSITORY\_PWD
- CONFIG\_SCC\_CSI\_UAFADMIN\_PWD (存在する場合)

1. (Windows) 64 ビット版の Windows 7、Windows 8、Windows 2008、または Windows Server 2012 に 32 ビット版の SCC をインストールする場合、インストーラの互換モードを Windows XP に設定します。

---

**ヒント：**このような追加手順を回避するには、64 ビット版の Windows インストーラを使用してください。

---

- a) `setup.exe` または `setupConsole.exe` を右クリックします。
  - b) [プロパティ] を選択します。
  - c) [互換性] タブで、[Windows XP] 互換モードを選択します。
  - d) [OK] をクリックします。
2. (Windows) Windows 7、Windows 8、Windows 2008、または Windows Server 2012 でインストールする場合、インストーラで [管理者として実行] オプションを設定します。すでに管理者権限を持っている場合もこれを行う必要があります。
  - a) `setupConsole.exe` を右クリックします。
  - b) [管理者として実行] を選択します。
3. インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを実行します。

- Windows コンソールモード:

```
setupConsole.exe -r <full-path-to-response-file>
```

例：

```
setupConsole.exe -r C:¥work¥responsefile.txt
```

- Windows GUI モード :

```
setupConsole.exe -r <full-path-to-response-file>
```

例 :

```
setupConsole.exe -r C:¥work¥responsefile.txt
```

- UNIX :

```
setup.bin -r <full-path-to-response-file>
```

例 :

```
setup.bin -r /work/responsefile.txt
```

---

**注意：** 応答ファイルへのディレクトリパスは、すでに存在している必要があります。

---

4. インストーラへの応答の詳細については、「SAP インストーラを使用したインストール」(15 ページ)を参照してください。
5. 応答ファイルを使用する前に、そのファイルを開いて、パスワードのプロパティ CONFIG\_SCC\_CSI\_SCCADMIN\_PWD、CONFIG\_SCC\_REPOSITORY\_PWD、および CONFIG\_SCC\_CSI\_UAFADMIN\_PWD (存在する場合) の値を追加します。  
セキュリティ上の理由により、インストール中に応答ファイルを生成する場合、入力したパスワード値は記録されません。そのため、インストール時にこれらのパスワードを null 以外の値に設定する必要があります。パスワードを応答ファイルに格納したくない場合は、CONFIG\_SCC\_CSI\_SCCADMIN\_PWD 環境変数、CONFIG\_SCC\_REPOSITORY\_PWD 環境変数、および CONFIG\_SCC\_CSI\_UAFADMIN\_PWD 環境変数を介してこれらを設定できます。

### 次のステップ

応答ファイルには、パスワードがクリアテキストで格納される可能性があります。ファイルの使用後は、ファイルを削除するか、パスワードを削除してください。

## 無人 (サイレント) モードでのインストール

サイレント (無人) インストールを実行するには、インストーラを実行し、指定したインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

### 前提条件

- インストール応答ファイルを作成します。
- アップグレードする場合は、以前のバージョンの SAP Control Center を停止してから、新しいバージョンをインストールすることをおすすめします。インストーラは HTTP、HTTPS、および RMI の各ポートを設定する際、指定された

ポート番号が使用中かどうかを確認します。新しいバージョンをインストールする際に、以前のバージョンの SCC が実行されている場合は、両方のバージョンで同じポートを使用することはできません。SCC の2つのバージョンを同時に実行する場合にのみ異なるポートを設定しますが、これは推奨されません。

### 手順

1. (Windows) Windows のバージョンをインストールする場合は、管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
2. (Windows) Windows 7、Windows 8、Windows 2008、または Windows Server 2012 でインストールする場合、インストーラで [管理者として実行] オプションを設定します。すでに管理者権限を持っている場合もこれを行う必要があります。
  - a) `setupConsole.exe` (推奨) または `setup.exe` を右クリックします。

---

**警告！** SAP では、Windows の場合、サイレントインストールの実行時、フォアグラウンドで実行される `setupConsole.exe` を使用することをおすすめします。`setup.exe` はバックグラウンドで実行されるため、インストールが異常終了したという印象をユーザに与え、サイレントインストールを使用して再度インストールが試行される結果になります。複数のインストールを同時に実行すると、Windows レジストリが破壊され、オペレーティングシステムを再起動できなくなることがあります。

---

- b) [管理者として実行] を選択します。
3. サイレントモードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合：

```
setupConsole.exe -f <responseFileName> -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true -DRUN_SILENT=true
```

UNIX の場合：

```
setup.bin -f <responseFileName> -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true -DRUN_SILENT=true
```

ここで、*responseFileName* は、指定したインストールオプションを含むファイルのフルパスと名前です。

---

**注意：** サイレントモードでインストールする場合は、Sybase ソフトウェアライセンスに同意します。次のいずれかを実行します。

- 次のオプションをコマンドライン引数に含めます。

```
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

または

- 応答ファイルを編集して、次のオプションを含めます。

```
AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

GUI 画面またはコンソール画面が表示されない以外は、サイレントインストールのすべてのアクションは、GUI モードおよびコンソールモードのインストールのアクションと同じです。したがって、サイレントモードインストールの結果は、同じ応答内容で実行した、GUI モードまたはコンソールモードでのインストールの結果とまったく同じです。

## アンインストール

システムから SAP Control Center を削除します。

アンインストールすると、SCC の基本的な機能および製品モジュールを含むすべてのコンポーネントが削除されます。個々のコンポーネントをアンインストールすることはできません。

アンインストールしても、次のファイルは削除されません。

- JRE を含む他の SAP 製品が共有する Sybase または sap ディレクトリ内のファイル
- インストール後に作成されたファイル (ログファイル、バックアップファイルなど)。

共有ディスクインストールから実行されている SCC エージェントおよびサーバのインスタンスを無効または削除するために、アンインストールを実行する必要はありません。インスタンスの管理の詳細については、SCC のオンラインヘルプを参照してください。

1. (Windows) アンインストールを行う場合は、Windows のバージョンにかかわらず、管理者としてログインします。
2. アンインストーラを起動します。

Windows の場合:

- 次を開くかダブルクリックします。  
`%SYBASE%\sybuninstall\SCCSuite-X_X\uninstall.exe`  
 または  
`C:\sap\sybuninstall\SCCSuite-X_X\uninstall.exe`  
`X_X`にはリリース番号を指定します。
- または、[コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムのアンインストール] > [SAP Control Center] > [アンインストールと変更] の順に選択します。

UNIX の場合:

## SAP Control Center のインストール

次のコマンドを実行します。

```
$SYBASE/sybuninstall/SCCSuite-X_X/uninstall
```

または

```
/opt/sap/sybuninstall/SCCSuite-X_X/uninstall
```

`X_X`には SCC リリース番号を指定します。

3. アンインストーラの指示に従います。
4. インストール後に作成されたファイルを削除するには、アンインストーラが終了した時点で SCC インストールディレクトリを削除します。デフォルトでは、SCC インストールディレクトリは Sybase または sap ディレクトリにあり、その名前の中にリリース番号が含まれています (たとえば Sybase/SCC-3\_3)。その他の SAP 製品がこのマシンにインストールされていない場合は、Sybase または sap ディレクトリ (SCC インストールディレクトリの親ディレクトリ) を削除することもおすすめします。

# SAP Control Center のアップグレード

SAP Control Center を新しいバージョンにアップグレードします。

SCC は、バージョン 3.2.x または 3.1.x から 3.3.0 にアップグレードできます。

以下をアップグレードできます。

- シングルトン SCC サーバ - 共有ディスク機能を使用しません。
- SCC サーバインスタンス - 複数の SCC サーバと SCC エージェントが共有ディスク上のシングルインストールから実行されます。

SCC エージェントについては、新しいバージョンのインストール後、アップグレードする必要はありません。

## シングルトン SAP Control Center のアップグレード

---

キーファイルをリポジトリにコピーして、シングルトン SAP Control Center サーバ (共有ディスク機能を使用して他の SCC インスタンスとインストール済みファイルを共有しないサーバ) をアップグレードします。

### 前提条件

アップグレード前に SCC の最新バージョンをインストールします。以前のバージョンの SAP Control Center を使用してリソース (Adaptive Server、Data Assurance、SAP Sybase Event Stream Processor、SAP Sybase IQ、Replication Server、Replication Agent、Mirror Replication Agent) の複数のタイプを管理およびモニタした場合は、同じセットの製品モジュールプラグインを新しいバージョンの SCC にインストールします。

### 手順

1. SCC の古いバージョンと新しいバージョンの両方をシャットダウンします。
2. SCC の前のバージョンのインストールロケーションに移動します。
3. 次のファイルをコピーします。

Windows -

- %SYBASE%\SCC-3\_2\services\Repository\scc\_repository.db
- %SYBASE%\SCC-3\_2\services\Repository\scc\_repository.log
- %SYBASE%\SCC-3\_2\services\Repository\service-config.xml

または

## SAP Control Center のアップグレード

- %SYBASE%\\$SCC-3\_1\services\Repository\scc\_repository.db
- %SYBASE%\\$SCC-3\_1\services\Repository\scc\_repository.log
- %SYBASE%\\$SCC-3\_1\services\Repository\service-config.xml

### UNIX -

- \$SYBASE/SCC-3\_2/services/Repository/scc\_repository.db
- \$SYBASE/SCC-3\_2/services/Repository/scc\_repository.log
- \$SYBASE/SCC-3\_2/services/Repository/service-config.xml

### または

- \$SYBASE/SCC-3\_1/services/Repository/scc\_repository.db
- \$SYBASE/SCC-3\_1/services/Repository/scc\_repository.log
- \$SYBASE/SCC-3\_1/services/Repository/service-config.xml

4. コピーしたファイルを、インストールした最新バージョンの対応するディレクトリに貼り付けます。

たとえば、コピーしたファイルを C:\\$Sybase\\$SCC-3\_3\services\Repository または C:\\$sap\\$SCC-3\_3\services\Repository に貼り付けます。

5. 次のファイルをコピーします。

Windows - %SYBASE%\\$SCC-3\_2\services\SccSADataserer\service-config.xml

または: %SYBASE%\\$SCC-3\_1\services\SccSADataserer\service-config.xml

UNIX - \$SYBASE/SCC-3\_2/services/SccSADataserer/service-config.xml

または: \$SYBASE/SCC-3\_1/services/SccSADataserer/service-config.xml

6. コピーしたファイルを、インストールした最新バージョンの対応するディレクトリに貼り付けます。

たとえば、コピーしたファイルを C:\\$Sybase\\$SCC-3\_3\services\SccSADataserer または C:\\$sap\\$SCC-3\_3\services\SccSADataserer に貼り付けます。

7. SCC の前のバージョンで、このファイル内のトラストストアまたはキーストアのパスワードを変更しているかどうか判断します。

Windows - %SYBASE%\\$SCC-3\_2\services\EmbeddedWebContainer\service-config.xml

または: %SYBASE%\\$SCC-3\_1\services\EmbeddedWebContainer\service-config.xml

UNIX - \$SYBASE/SCC-3\_2/services/EmbeddedWebContainer/  
service-config.xml

または: \$SYBASE/SCC-3\_1/services/EmbeddedWebContainer/  
service-config.xml

変更している場合、最新のインストールバージョンの対応するディレクトリに次のファイルをコピーします。

8. SCC の前のバージョンで、このファイルを変更していないかどうか (sccadmin アカウントのパスワードを追加していないかなど) を判断します。

SCC 3.2.5 以前: SCC-3\_2/conf/csi.properties

SCC 3.2.6 以降: SCC-3\_2/conf/csi\_config.xml または SCC-3\_3/conf/  
csi\_config.xml

変更していた場合、最新バージョンの SCC-3\_3/conf/csi\_config.xml に同じ変更を行います。SCC 3.2.6 で、CSI ファイルの名前と形式が変更され、sccuser アカウントが削除されていることを確認します。

---

**注意：** SAP では、csi\_config.xml で定義されているログインアカウントを運用環境で使用しないことをおすすめします。LDAP またはオペレーティングシステムを使用した認証の設定手順については、SAP Control Center オンラインヘルプの「使用開始にあたって」>「セキュリティの設定」セクションを参照してください。

---

9. SCC の新しいバージョンを起動します。  
旧バージョンのリポジトリで最新バージョンのサーバを起動すると、リポジトリは自動的に最新バージョンにマイグレートします。

## 共有ディスクインスタンスのアップグレード

---

リポジトリにキーファイルをコピーすることにより、SAP Control Center サーバインスタンス (単一インストールから共有ディスク上で実行する複数の SCC サーバと SCC エージェントの 1 つ) をアップグレードします。

### 前提条件

アップグレード前に SCC の最新バージョンをインストールします。

複数の SCC サーバインスタンスを実行している場合、以前のバージョンとは異なるディレクトリに SCC の最新バージョンをインストールします。SCC 3.2.x (3.2 バージョンのいずれか) から SCC 3.3 にアップグレードする場合、デフォルトでインストーラは SCC 3.3 用に新しいディレクトリを作成します。

以前のバージョンの SAP Control Center を使用してリソース (Adaptive Server、Data Assurance、SAP Sybase Event Stream Processor、SAP Sybase IQ、Replication Server、Replication Agent、Mirror Replication Agent) の複数のタイプを管理およびモニタした場合は、同じセットの製品モジュールプラグインを新しいバージョンの SCC にインストールします。

### 手順

1. 新しいインストールディレクトリで共有ディスクモードを有効にします。  
SCC-3\_3¥bin で次のように入力します。  
`sccinstance -enable`
2. 新しいインストールディレクトリに、以前のバージョンで配備したインスタンスに対応するインスタンスを配備します。たとえば、SCC-3\_3¥bin 内に以下を入力します。このとき、配備するサーバインスタンスは Boston とします。
  - Windows -  
`sccinstance -create -server -instance Boston -service`
  - UNIX -  
`sccinstance -create -server -instance Boston`

インスタンス配備の詳細については、オンラインヘルプの「使用開始にあたって」>「共有ディスクインストールからのインスタンスの配備」を参照してください。
3. SCC の新しいバージョンと古いバージョン両方のすべてのインスタンスをシャットダウンします。
4. 共有ディスク上の SCC の前のバージョンのインストールロケーションに移動します。
5. 以前のバージョンの `scc_repository.db` ファイル、`scc_repository.log` ファイル、および `service-config.xml` ファイルを Repository ディレクトリからコピーします。次に例を示します。

Windows -

- %SYBASE%¥SCC-3\_2¥instances¥<instance-name>¥services ¥Repository¥scc\_repository.db
- %SYBASE%¥SCC-3\_2¥instances¥<instance-name>¥services ¥Repository¥scc\_repository.log
- %SYBASE%¥SCC-3\_2¥instances¥<instance-name>¥services ¥Repository¥service-config.xml

UNIX -

- \$SYBASE/SCC-3\_2/instances/<instance-name>/services/Repository/scc\_repository.db
  - \$SYBASE/SCC-3\_2/instances/<instance-name>/services/Repository/scc\_repository.log
  - \$SYBASE/SCC-3\_2/instances/<instance-name>/services/Repository/service-config.xml
6. コピーしたファイルを、インストールした最新バージョンの対応するインスタンスディレクトリに貼り付けます。次に例を示します。
- ```
C:¥Sybase¥SCC-3_3¥instances¥<instance-name>¥services¥Repository
```
7. 以前のバージョンの service-config.xml ファイルを SccSADataserer ディレクトリからコピーします。次に例を示します。
- ```
Windows - %SYBASE%¥SCC-3_2¥instances¥<instance-name>¥services¥SccSADataserer¥service-config.xml
UNIX - $SYBASE/SCC-3_2/instances/<instance-name>/services/SccSADataserer/service-config.xml
```
8. コピーしたファイルを、インストールした最新バージョンの対応するインスタンスディレクトリに貼り付けます。次に例を示します
- ```
C:¥Sybase¥SCC-3_3¥instances¥<instance-name>¥services¥SccSADataserer
```
9. SCC の前のバージョンで、このファイル内のトラストストアまたはキーストアのパスワードを変更しているかどうか判断します。
- ```
Windows - %SYBASE%¥SCC-3_2¥instances¥<instance-name>¥services¥EmbeddedWebContainer¥service-config.xml
UNIX - $SYBASE/SCC-3_2/instances/<instance-name>/services/EmbeddedWebContainer/service-config.xml
```
- 変更している場合、最新のインストールバージョンの対応するディレクトリに次のファイルをコピーします。
10. SCC の前のバージョンで、このファイルを変更していないかどうか (sccadmin アカウントのパスワードを追加していないかなど) を判断します。
- ```
SCC 3.2.5 以前: SCC-3_2/conf/csi.properties
SCC 3.2.6 以降: SCC-3_2/conf/csi_config.xml
```
- 変更していた場合、最新バージョンの SCC-3\_3/conf/csi\_config.xml に同じ変更を行います。SCC 3.2.6 で、CSI ファイルの名前と形式が変更され、sccuser アカウントが削除されていることを確認します。

---

**注意：** SAP では、`csi_config.xml` で定義されているログインアカウントを運用環境で使用しないことをおすすめします。LDAP またはオペレーティングシステムを使用した認証の設定手順については、SAP Control Center オンラインヘルプの「使用開始にあたって」>「セキュリティの設定」セクションを参照してください。

---

11. SCC の新しいバージョンの各インスタンスを起動します。  
旧バージョンのリポジトリで最新バージョンのサーバを起動すると、リポジトリは自動的に最新バージョンにマイグレートします。

## サードパーティのレプリケートデータベース用の JDBC ドライバのインストール

(オプション、複製のみ) 複製環境で遅延モニタ (**rs\_ticket**) を使用してサードパーティのレプリケートデータベースへの遅延を測定する場合は、JDBC ドライバをインストールして、SAP Control Center でそれらのレプリケートデータベースに接続できるようにする必要があります。

JDBC ドライバは、SAP Control Center のインストール後、SCC サーバがすでに実行されていても、いつでもインストールできます。

1. ご使用のデータベース用の JDBC ドライバをダウンロードします。ドライバは、通常、データベースサーバに付属しているか、またはデータベースベンダーの Web サイト上にあります。
  - Oracle 9i、10g、11g  
ドライバ - JDK 1.5 用 Oracle JDBC Thin Driver 11.1 (ojdbc5.jar)
  - Microsoft SQL Server 2005 および 2008  
ドライバ - Microsoft SQL Server JDBC Driver 2.0 (sqljdbc.jar)
  - IBM DB2 UDB 8.22、9.1、9.5  
ドライバ - IBM DB2 for Unix、Linux、Windows JDBC Driver 9 (db2jcc.jar および db2jcc\_license\_cu.jar)
2. ドライバを次の場所に置きます。
  - Windows - %SYBASE%\SCC-3\_3\plugins\RMAP\lib
  - UNIX - \$SYBASE/SCC-3\_3/plugins/RMAP/lib
3. SCC が実行されている場合は、それを停止してから再度起動します。

## サードパーティのレプリケートデータベース用の JDBC ドライバのインストール

# SAP Control Center の起動と停止

SAP Control Center を起動、またはシャットダウンします。Windows および UNIX では SCC をサービスとして実行できます。

## Windows での ODBC ドライバの登録

---

Windows で、**scc.bat** を管理者特権で実行して、ODBC ドライバを登録します。

Windows マシンで SAP Control Center を初めて起動すると、ODBC ドライバが登録されます。ODBC ドライバの自動登録では、レジストリ設定が編集されるため、引き上げた管理者権限を使用して **scc.bat** を実行する必要があります。十分な権限なしで初回の起動を行うと、エラーが発生し起動に失敗します。

Windows 2008、Windows 7、および Windows 8 では、すでに管理者権限を持っている場合でも [管理者として実行] 設定を使用して SCC を起動する必要があります。このプロセスについて次に説明します。

Windows のその他のバージョンでは、初めて SCC を起動する場合、管理者としてログインしている必要があります。次の手順に従う必要はありません。

1. Windows 2008、Windows 7、または Windows 8 では、管理者権限を使用してコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
  - [スタート]>[すべてのプログラム]>[アクセサリ] を選択します。[コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
  - または、[スタート]メニューの [検索] ボックスに **cmd** と入力し、文にカーソルを合わせ、[Shift+Ctrl+Enter] キーを押します。
2. **scc.bat** を実行します。

## Windows での SAP Control Center の起動と停止

---

SAP Control Center または SCC エージェントを起動および停止する方法は複数あります。SAP Control Center または SCC エージェントは手動で起動できます。これは、テストやトラブルシューティングに便利です。また、サービスが自動的に起動され、障害発生時には再起動されるように設定することもできます。

このトピックは、SAP Control Center (管理 UI を含むサーバ) および SCC で管理される各製品サーバで実行される SCC エージェントの両方に適用されます。インストーラで両方のオプションを選択して同じディレクトリに SCC と SCC エン

トをインストールした場合、単一のコマンドを実行するか、単一のサービスを制御することで、常にそれらを一緒に起動および停止します。このトピックは、シングルトンインストール (共有ディスクを使用しない)、および共有ディスクから実行されている SCC エージェントとサーバのインスタンスの両方に適用されません。

SAP Control Center または SCC エージェントを手動で実行する場合、起動または停止のたびにコマンドを発行する必要があります。サービスとして実行する場合 (推奨)、それが自動的に起動および再起動されるように設定することができます。オプションは次のとおりです。

- **scc.bat** コマンドを使用して SCC または SCC エージェントを手動で起動します。このコマンドにより、SCC コンソールにアクセスできます。このコンソールを使用して、サービスを停止したり、サービス、ポート、システムプロパティ、および環境変数に関する情報を表示できます。さらに、**scc.bat** は、トラブルシューティングの目的でログレベルを変更するために使用することもできます。**scc.bat** を使用すると、サービスで使用可能な自動起動と再起動の機能を利用できません。
- SCC サーバまたはエージェントの SAP Control Center サービスを起動、停止、設定するには、Windows の [コントロールパネル] の [サービス] リストを使用します。
- **net start** コマンドと **net stop** コマンドを使用します。これは、サービスとして実行されるように SAP Control Center または SCC エージェントを設定するもう 1 つの方法です。

---

**注意：** SCC エージェントまたはサーバをサービスとして起動するには、次の手順を実行します。

- シングルトンインストールでサービスとしてエージェントまたはサーバをインストールするには、インストーラで [はい] を選択しておく必要があります。
- 共有ディスクインストールの場合、エージェントやサーバは、**sccinstance** コマンドの **-service** オプションを使用して展開されている必要があります。

---

シングルトンインストールでは、SCC または SCC エージェントをサービスとして起動することができ、サービスが自動的に再起動されるように設定します。起動の前に、Windows の [サービス] リストに SAP Control Center サービスがあることを確認します。

次に、起動/停止オプションごとの手順を説明します。

- **SAP Control Center または SCC エージェント (一緒にインストールされている場合は両方) を起動します。**
  - a) (SCC エージェントの場合はこの手順を省略します。) Windows 2008、Windows 7、または Windows 8 で初めて SAP Control Center を起動する場合、

SAP Control Center の ODBC ドライバを登録できるようにコマンドプロンプトで [管理者として実行] オプションを設定します (これは、システム管理者としてログインしている場合にも必要です)。

- b) **scc** コマンドを入力します。

シングルトンインストールの場合:

```
%SYBASE%\SCC-3_3\bin\scc.bat
```

インスタンスの場合:

```
%SYBASE%\SCC-3_3\bin\scc.bat -instance <instance-name>
```

インスタンスの名前がホスト名と同じ場合は (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **SAP Control Center** または **SCC エージェント** (一緒にインストールされている場合は両方) を停止します。

- a) **scc --stop** コマンドを入力します。

シングルトンインストールの場合:

```
%SYBASE%\SCC-3_3\bin\scc.bat --stop
```

インスタンスの場合:

```
%SYBASE%\SCC-3_3\bin\scc.bat --stop -instance <instance-name>
```

インスタンスの名前がホスト名と同じ場合は (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

---

**注意:** また、`scc-console>` プロンプトで、**shutdown** を入力することもできます。

---

- **Windows** の [コントロールパネル] から起動または停止し、自動起動と再起動を設定します。

- a) Windows の [コントロールパネル] を開きます。

- b) [管理ツール] > [サービス] を選択します。

- c) [サービス] リストで “SAP Control Center” を見つけます。インスタンス用のサービスの場合はリリース番号が付いている場合があります。またインスタンス名が付いている場合もあります。サービス名では、エージェントとサーバは区別されません。サービスが実行されている場合、[状態] 列には [開始] と表示されます。

- d) サービスを起動または停止するには、[Services] リストで [SAP Control Center] エントリを右クリックし、[Start] または [Stop] を選択します。
  - e) 自動起動を設定するには、サービスをダブルクリックします。
  - f) マシンの起動時にサービスが自動的に起動するように設定するには、[Startup type] を [Automatic] に変更します。
  - g) 障害が発生した場合にサービスを再起動するには、[Recovery] タブを選択し、[First]、[Second]、[Subsequent] のエラーを [Restart Service] に変更します。
  - h) [Apply] をクリックして変更を保存してから、ダイアログボックスを閉じます。
- **Windows のコマンドラインから SAP Control Center サービス (SAP Control Center と SCC エージェントのいずれか一方または両方を制御する) を起動または停止します。**

- a) サービスを起動するには、**net start** コマンドを入力します。

シングルトンインストールの場合:

```
net start "SAP control center 3.3"

The SAP Control Center 3.3 service is starting.....
The SAP Control Center 3.3 service was started
successfully.
```

インスタンスの場合、インスタンス名 (この例では Boston-1) をカッコに含めます。

```
net start "SAP control center 3.3 (Boston-1)"

The SAP Control Center 3.3 (Boston-1) service is
starting.....
The SAP Control Center 3.3 (Boston-1) service was started
successfully.
```

- b) サービスを停止するには、**net stop** コマンドを入力します。

シングルトンインストールの場合:

```
net stop "SAP control center 3.3"

The SAP Control Center 3.3 service is stopping.....
The SAP Control Center 3.3 service was stopped
successfully.
```

インスタンスの場合、インスタンス名 (この例では Boston-1) をカッコに含めます。

```
net stop "SAP control center 3.3 (Boston-1)"

The SAP Control Center 3.3 (Boston-1) service is
```

```
stopping.....  
The SAP Control Center 3.3 (Boston-1) service was stopped  
successfully.
```

## UNIX での SAP Control Center の起動と停止

---

SAP Control Center または SCC エージェントは手動で起動できます。これは、テストやトラブルシューティングに便利です。また、サービスが自動的に起動され、障害発生時には再起動されるように設定することもできます。

このトピックは、SAP Control Center (管理 UI を含むサーバ) および SCC で管理される各製品サーバで実行される SAP Control Center エージェントの両方に適用されます。インストーラで両方のオプションを選択して同じディレクトリに SCC と SCC エージェントをインストールした場合、単一のコマンドを実行するか、単一のサービスを制御することで、それらを一緒に起動および停止します。このトピックは、シングルインストール (共有ディスクを使用しない)、および共有ディスクから実行されている SCC エージェントとサーバのインスタンスの両方に適用されます。

SAP Control Center または SCC エージェントを手動で起動する場合、起動または停止のたびにコマンドを発行する必要があります。サービスとして実行する場合 (推奨)、それが自動的に起動および再起動されるように設定することができます。オプションは次のとおりです。

- **scc.sh** スクリプトを使用して SAP Control Center または SCC エージェントを手動で起動します。次のいずれかの方法を使用できます。
  - フォアグラウンドで **scc.sh** を実行し、SCC コンソールにアクセスします。このコンソールを使用して、サービスを停止したり、サービス、ポート、システムプロパティ、および環境変数に関する情報を表示できます。
  - バックグラウンドで **scc.sh** を実行し、SCC コンソールが表示されないようにします。

トラブルシューティングのためにデフォルト以外のログレベルで SAP Control Center を実行するには、**scc.sh** を使用します。**scc.sh** を使用して手動で起動すると、サービスで使用可能な自動起動と再起動の機能を利用できません。

- **sccd** スクリプトを使用して SCC または SCC エージェントが自動的に起動されるように設定します。

次に、起動/停止オプションごとの手順を説明します。

- **SAP Control Center または SCC エージェントを初めて起動する前に、環境変数を設定します。** これは、一度だけ行います。

- a) SAP Control Center インストールディレクトリの親ディレクトリに変更します (通常、親ディレクトリは /opt/sap または opt/sybase です)。
- b) 次のいずれかを実行して、環境変数を設定します。

Bourne シェル :

```
. SYBASE.sh
```

C シェル :

```
source SYBASE.csh
```

- **SAP Control Center または SCC エージェント (一緒にインストールされている場合は両方) をフォアグラウンドで実行します。**

フォアグラウンドでの実行は、手動で起動する場合の方法です。SCC または SCC エージェントを停止して再起動するには、コマンドを発行する必要があります。

- a) SCC または SCC エージェントを起動し、起動シーケンスの終了時にコンソールにそれをドロップするには、**scc** コマンドを入力します。

シングルトンインストールの場合:

```
$SYBASE/SCC-3_3/bin/scc.sh
```

インスタンスの場合:

```
$SYBASE/SCC-3_3/bin/scc.sh -instance <instance-name>
```

インスタンスの名前がホスト名と同じ場合は (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **SAP Control Center または SCC エージェント (一緒にインストールされている場合は両方) をバックグラウンドで実行します。**

**nohup**、**&**、および **>** を使用すると、SAP Control Center または SCC エージェントをバックグラウンドで実行し、出力とシステムエラーをファイルにリダイレクトし、SCC コンソールを非表示にすることができます。バックグラウンドでの実行は、手動で起動する場合の方法です。SCC または SCC エージェントを停止して再起動するには、コマンドを発行する必要があります。

- a) シェルに対応する次のサンプルと同様のコマンドを実行します。サンプルコマンドはどちらも `scc-console.out` ファイルに出力をダイレクトします。出力ファイルがすでに存在する場合は、その他のシェル演算子を使用してファイルに追加したり、ファイルをトラケートすることが必要になることがあります。

Bourne shell (sh) または Bash

シングルトンインストールの場合 :

```
nohup ./scc.sh 2>&1 > scc-console.out &
```

インスタンスの場合 :

```
nohup ./scc.sh -instance <instance-name> 2>&1 > scc-console-
your-instance.out &
```

インスタンスの名前がホスト名と同じ場合は (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

C シェル

シングルトンインストールの場合：

```
nohup ./scc.sh >& scc-console.out &
```

インスタンスの場合：

```
nohup ./scc.sh -instance <instance-name> >& scc-console.out &
```

インスタンスの名前がホスト名と同じ場合は (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **SAP Control Center または SCC エージェント (一緒にインストールされている場合は両方) を停止します。**

- a) `scc-console>` プロンプトから停止するには、次のように入力します。

```
shutdown
```

**警告！** UNIX のプロンプトで **shutdown** と入力しないでください。入力すると、オペレーティングシステムがシャットダウンしてしまいます。

UNIX コマンドラインから停止するには、**scc --stop** コマンドを入力します。

シングルトンインストールの場合：

```
$$SYBASE/SCC-3_3/bin/scc.sh --stop
```

インスタンスの場合：

```
$$SYBASE/SCC-3_3/bin/scc.sh --stop -instance <instance-
name>
```

インスタンスの名前がホスト名と同じ場合は (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **サービスとして実行されるように SAP Control Center または SCC エージェントを設定します。**

UNIX サービスは、マシンの起動後に自動的に開始され、バックグラウンドで実行されるデーモンプロセスです。SCC の UNIX インストールには、シェルスクリプト **sccd** が含まれています。このシェルスクリプトを使用して SCC サービスを設定できます (一部の UNIX プラットフォームでは、サービスの設定を容易にするツールが提供されています。Linux **chkconfig** はその例です)。

**注意：** SAP では、UNIX でのサービスの設定に慣れていないユーザは、この作業をシステム管理者に任せるか、UNIX プラットフォームのシステム管理のマニュアルを参照することをおすすめします。

## SAP Control Center の起動と停止

a) `SYBASE/SCC-3_3/bin/sccd` を次のディレクトリにコピーします。

- AIX (SCC エージェントのみ) : `/etc/rc.d/init.d`
- HP-UX (SCC エージェントのみ) : `/sbin/init.d`
- その他のプラットフォーム : `/etc/init.d`

b) `sccd` を開き、次の変更を加えます。

- `SYBASE` 変数を設定する行を SAP Sybase インストールのロケーション (SAP Control Center インストールディレクトリ `SCC-3_3` の親) に変更します。Sybase 製品または環境変数がすでに存在するマシンに SCC がインストールされている場合、このディレクトリ名はデフォルトで `/opt/sybase` です。それ以外の場合、デフォルトの親ディレクトリは `/opt/sap` です。
- 共有ディスクモードを使用していない場合、または共有ディスクモードを使用してホスト名と同じ名前の単一インスタンスを実行している場合は、手順 5.c (40 ページ) または手順 5.d (41 ページ) にスキップします。
- 共有ディスクモードを使用してホスト名とは異なる名前の単一インスタンスを実行している場合、または同じホスト上で複数のインスタンスを実行している場合は、スクリプト名にインスタンス名を追加します。

```
SCRIPT_NAME=scc.sh
```

上記を次のように変更します。

```
SCRIPT_NAME="scc.sh -instance <instance-name>"
```

- 共有ディスクモードを使用して同じホスト上で複数のインスタンスを実行している場合は、出力ログファイルの名前にインスタンス名を追加します。

```
./${SCRIPT_NAME} --start 2>&1 >> ${SCC_HOME}/log/scc-service.out &
```

上記を次のように変更します。

```
./${SCRIPT_NAME} --start 2>&1 >> ${SCC_HOME}/log/scc-service_<instance-name>.out &
```

- 共有ディスクモードを使用して、同じホストで複数のインスタンスを実行する場合、インスタンスごとに `sccd` スクリプトのコピーを一意的な名前前で保存します。各コピーで、スクリプト名にインスタンス名を追加し、さらにインスタンス名を前述のように出力ログファイル名に追加します。 `sccd` のコピーごとに残りの手順を実行します。

c) Linux の場合は、サービスがランレベル 2、3、4、5 で実行されるように設定します。

```
/usr/sbin/chkconfig --add sccd  
/usr/sbin/chkconfig --level 2345 sccd
```

sccd スクリプトは、`/usr/sbin/service sccd status` を使用してテストできます (**service** コマンドでは次のオプションが受け入れられません。

**start | stop | status | restart**)。

d) Linux 以外のプラットフォームでは、次のディレクトリを検索します。

- AIX (SCC エージェントのみ) : `/etc/rc.d/rc<X>.d`
- HP-UX (SCC エージェントのみ) : `/sbin/rc<X>.d`
- Solaris の場合 : `/etc/rc<X>.d`

ここで、`<X>` はランレベル (たとえば 3) です。ご使用のプラットフォームのディレクトリに 2 つのソフトリンクを作成して、次を参照するようにリンクを設定します。

- AIX (SCC エージェントのみ) :  
`/etc/rc.d/init.d/sccd: S90sccd および`  
`/etc/rc.d/init.d/sccd: K10sccd`
- HP-UX (SCC エージェントのみ) :  
`/sbin/init.d/sccd: S90sccd および`  
`/sbin/init.d/sccd: K10sccd`
- Solaris の場合 :  
`/etc/init.d/sccd: S90sccd および`  
`/etc/init.d/sccd: K10sccd`

S90sccd リンクはサービスを起動し、K10sccd リンクはサービスを停止します。リンク内の 2 桁の数値は、サービスの起動と停止の優先度を示します。

e) S90sccd リンクと K10sccd リンクを使用してサービスの起動と停止をテストします。リンクは、マシンの起動時または停止時に自動的に呼び出されます。



# インストール後の設定

インストールが完了したら、テストと設定を行います。

## 前提条件

SAP Control Center を起動します。

## 手順

1. SCC への接続に使用する Web ブラウザに Adobe Flash Player 10.1 以降をインストールします。

Flash Player は無償のプラグインです。最新バージョンを <http://get.adobe.com/jp/flashplayer/> からダウンロードできます。

Flash Player がすでにインストールされていても、そのバージョンが不明な場合は、Adobe テストサイト (<http://www.adobe.com/jp/shockwave/welcome/>) にアクセスしてください。[Adobe Flash Player のインストール状況をテスト] というリンクをクリックします。次に表示されるページのバージョン情報ボックスにお使いの Flash Player のバージョンが表示されます。

2. SCC に接続するには、ブラウザに次の URL を入力します。

```
https://<scs_server_hostname>:8283/scs
```

---

**注意：** インストール時にデフォルトの HTTPS ポートを変更した場合は、8283 ではなく新しいポート番号を使用します。

---

3. (オプション) セキュリティ証明書に関するエラーが表示された場合は、ブラウザの [信頼済みサイト ゾーン] (Internet Explorer) に SCC を追加するか、セキュリティ例外 (Firefox) を追加します。
4. ログインします。

SCC では、初期設定および永久認証の設定用としてデフォルトのログインアカウント `scsadmin` が用意されています。パスワードはインストール時に設定します。

---

**注意：** `scsadmin` アカウントとその基となる事前設定されたログインモジュールは、運用環境での使用を目的としていません。オンラインヘルプの [使用開始にあたって]>[セキュリティの設定] セクションに説明したとおり、認証はオペレーティングシステムまたは LDAP に任せることをおすすめします。

認証の設定とテストの完了と同時に `sccadmin` を無効にすることをおすすめします。また、認証をすぐに設定してテストしない場合は、`sccadmin` アカウントのパスワードを変更することをおすすめします。

5. (オプション)パスワードを変更するか、`sccadmin` を無効にします。「パスワードの変更またはデフォルトログインアカウントの無効化」を参照してください。
6. SAP Control Center について説明します。ヘルプシステムを開くには、画面の右上隅にある [?] をクリックし、[ヘルプ]>[オンラインマニュアル] を選択します。

## SSL 証明書の設定

X.509 証明書をインストールすることにより、SAP Control Center とブラウザクライアント間の暗号化 SSL 通信のセキュリティを確保します。

初めて SAP Control Center を起動すると、それを実行するホストに対して自己署名付きの X.509 SSL (Secure Sockets Layer) 証明書が生成されます。自己署名付きの証明書は、信頼される認証局によって発行されないため、自己署名付きの証明書を使用して SCC に接続しようとすると、ほとんどのブラウザではエラーが発生します。

証明書エラーをなくするためには、認証局からの永久 SSL 証明書をインストールします。SAP では、運用環境で SCC を使用する前に、認証局によって署名された証明書をインストールすることをおすすめします。SCC サーバがインストールされているマシンごとに証明書を取得します。

次に、認証局が発行する SSL 証明書の購入とインストールの概要を示します。詳細については、<http://docs.codehaus.org/display/JETTY/How+to+configure+SSL> を参照してください。

1. 既存の証明局 (VeriSign, Inc.、Thawte, Inc. など) から SSL 証明書を取得するには、証明書署名要求 (CSR: certificate signing request) を生成して、証明局に送信します。次のいずれかのコマンドを使用して、CSR を生成します。

Windows :

```
keytool -certreq -alias jetty -keystore  
%SYBASE%\SCC-3_3\services\EmbeddedWebContainer\keystore  
-file scc_jetty.csr
```

または

```
keytool -certreq -alias jetty -keystore  
C:\sap\SCC-3_3\services\EmbeddedWebContainer\keystore  
-file scc_jetty.csr
```

UNIX の場合:

```
keytool -certreq -alias jetty -keystore
$SYBASE/SCC-3_3/services/EmbeddedWebContainer/keystore
-file scc_jetty.csr
```

または

```
keytool -certreq -alias jetty -keystore
/opt/sap/SCC-3_3/services/EmbeddedWebContainer/keystore
-file scc_jetty.csr
```

---

**注意：** `keytool` ユーティリティは、SAPJRE インストールディレクトリにあります。

Windows の場合: %SAP\_JRE7%\bin\keytool

UNIX の場合: \$SAP\_JRE7/bin/keytool

---

2. 認証局が提供する手順に従い、署名付き証明書を SCC キーストアにインポートし、認証局の信頼された証明書を必要に応じて “truststore” cacerts にインストールします。通常、署名付き証明書をインポートするコマンドは次のとおりです。

Windows :

```
keytool -keystore %SYBASE%\SCC-3_3\services
\EmbeddedWebContainer\keystore
-import -alias jetty -file scc_jetty.crt -trustcacerts
```

または

```
keytool -keystore C:\sap\SCC-3_3\services
\EmbeddedWebContainer\keystore
-import -alias jetty -file scc_jetty.crt -trustcacerts
```

UNIX :

```
keytool -keystore $SYBASE/SCC-3_3/services/
EmbeddedWebContainer/keystore
-import -alias jetty -file scc_jetty.crt -trustcacerts
```

または

```
keytool -keystore /opt/sap/SCC-3_3/services/
EmbeddedWebContainer/keystore
-import -alias jetty -file scc_jetty.crt -trustcacerts
```

初期のキーストアのパスワードは `changeit` です。

## パスワードの設定またはデフォルトログインアカウントの無効化

---

デフォルトユーザアカウントを使用する場合は、それに対する新しいパスワードを設定します。それらのアカウントを使用しない場合は、それらを無効にします。デフォルトユーザアカウントは、sccadmin (SAP Control Center) および uafadmin (SCC エージェント) です。

### 前提条件

sccadmin アカウントまたは uafadmin アカウントを無効にする前に、次の操作が必要です。

- LDAP またはオペレーティングシステムを介してユーザーを認証するように SAP Control Center (uafadmin アカウントを無効にする場合は SCC エージェント) を設定します。SCC オンラインヘルプの「使用開始にあたって」>「セキュリティの設定」を参照してください。
- LDAP またはオペレーティングシステムで SAP Control Center (または SCC エージェント) の管理権限を少なくとも 1 つのユーザアカウントに付与します。オンラインヘルプの「使用開始にあたって」>「ユーザ認証」を参照してください。

### 手順

1. テキストエディタで `csi_config.xml` ファイルを開きます。

Windows の場合:

```
%SYBASE%\SCC-3_3\conf\csi_config.xml または  
C:\sap\SCC-3_3\conf\csi_config.xml
```

UNIX の場合:

```
$SYBASE/SCC-3_3/conf/csi_config.xml または  
/opt/sap/SCC-3_3/conf/csi_config.xml
```

2. 該当するアカウント名を検索します。

- SAP Control Center: sccadmin
- SCC エージェント uafadmin

アカウント名を含むブロックは次のようになります。

```
<!-- Default SCC admin account: sccadmin -->  
<authenticationProvider controlFlag="sufficient"
```

```
name="com.sybase.security.core.PreConfiguredUserLoginModule">
  <options name="username" value="sccadmin"/>
  <options name="password"
value="{SHA-256:QZT6pRIx6l8=}sENxwVBfp65aaTjd/
vAZFQAQOmkrk4Zl7iXLOFyJqCM="/>
  <options name="roles" value="SCC Administrator"/>
</authenticationProvider>
```

または

```
<!-- Default SCC agent admin account: uafadmin -->
<authenticationProvider controlFlag="sufficient"

name="com.sybase.security.core.PreConfiguredUserLoginModule">
  <options name="username" value="uafadmin"/>
  <options name="password"
value="{SHA-256:WNAtpqw76zA=}GYeAKdTRiIh1VcqmwV1k/
A2pcXSHfLUBr9boP03ArKE=" />
  <options name="roles" value="SCC Agent Administrator"/>
</authenticationProvider>
```

- (オプション) アカウントを無効にするには、`-->` 文字を最初の行の末尾から最終行の末尾に移動することで、ファイルの `sccadmin` ブロックまたは `uafadmin` ブロックをコメントにします。最終行は次のようになります。

```
</authenticationProvider> -->
```

その後、手順 6 に進みます。

- アカウントを無効するよりもパスワードを設定する必要がある場合は、`sccadmin` アカウントまたは `uafadmin` アカウントのパスワードを暗号化およびコピーします (「パスワードの暗号化」(47 ページ) を参照)。
- パスワード行の値フィールドに暗号化パスワードを貼り付けます。パスワード行は次のようになります (必ず二重引用符の内側に貼り付けてください)。

```
<options name="password"
value="{SHA-256:WNAtpqw76zA=}GYeAKdTRiIh1VcqmwV1k/
A2pcXSHfLUBr9boP03ArKE=" />
```

- ファイルを保存して終了します。
- 新しいパスワード、またはパスワードの無効化を有効にするには、変更を加えた SCC サーバまたはエージェントを再起動します。

## パスワードの暗号化

テキストファイルに保存している間、安全に保つ必要があるパスワードなどの値を暗号化するには、**passencrypt** ユーティリティを使用します。

暗号化パスワードは設定ファイルに安全に保存できます。**passencrypt** の実行時、およびログイン時に、パスワードをクリアテキスト (暗号化されていない) で入力します。

## インストール後の設定

SAP Control Center の bin ディレクトリにある **passencrypt** は、csi\_config.xml の PreConfiguredLoginModule で使用されるパスワードに SHA-256 ハッシュアルゴリズムを使用します。

1. コマンドウィンドウを開き、bin ディレクトリに移動します。

Windows の場合： `cd <SCC-install-directory>%bin`

UNIX の場合： `cd <SCC-install-directory>/bin`

2. パスワードを暗号化するには、**passencrypt -csi** と入力します。その結果表示されたプロンプトで、新しいパスワードを入力します。  
**passencrypt** は、入力したパスワード (画面には表示されません) を暗号化し、暗号化した形式でパスワードを表示します。
3. 暗号化されたパスワードをコピーします。
4. 暗号化されたパスワードを必要な場所に貼り付けます。

## インクリメンタルバックアップの有効化

---

(オプション) SAP Control Center リポジトリのインクリメンタルバックアップの生成を有効にします。

この手順はいつでも実行できます。この変更前に実行されたインクリメンタルバックアップからリポジトリをリストアすることはできません。

1. SCC を停止します。
2. テキストエディタでこのファイルを開きます。  
`SCC-3_3/services/ScsSADataserver/service-config.xml`
3. 次の行を削除します。  
`<set-property property="com.sybase.asa.database.options" value="-m" />`
4. 変更を保存して SCC を起動します。

### 次のステップ

バックアップの設定方法は、オンラインヘルプの「管理とモニタ」>「Sybase Control Center の管理」>「リポジトリ」>「リポジトリのバックアップのスケジュール」を参照してください。

## SAP Control Center の設定

SAP Control Center を使用する前に、設定とセットアップの作業(セキュリティの設定を含む)を実行します。

- 次のいずれかの操作を行って、オンラインヘルプにアクセスします。
  - SCC 画面の右上隅にある [?] をクリックします。ヘルプウィンドウの左ウィンドウ枠で SAP Control Center のマニュアルを展開します。
  - <http://sybooks.sybase.com> にアクセスし、[Select a Product] リストから [Sybase Control Center] を選択します。
  - 管理対象製品については、<http://help.sap.com> にアクセスして、マニュアルセットから SAP Control Center のヘルプを探してください。

製品のヘルプには、インストールした各製品コンポーネントのモジュールが含まれています。Web のヘルプには、すべてのヘルプモジュールが含まれています。

- 次の設定手順を完了します。

| タスク                                                                                   | ヘルプ内の場所                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| (オプション) クイックスタートの実行                                                                   | 「使用開始にあたって」><br>「評価のクイックスタート」     |
| 運用環境用の設定タスクの実行                                                                        | 「使用開始にあたって」><br>「運用環境での使用開始にあたって」 |
| SCC 製品モジュールの設定<br>サーバの登録、統計収集の設定、警告の作成など                                              | 「設定」                              |
| <b>注意：</b> 設定タスクはコンポーネントによって異なります。複数の SCC 製品モジュールがインストールされている場合は、各モジュールの設定手順に従ってください。 |                                   |

## インストール後の設定

# インストールのトラブルシューティング

SAP Control Center に関する問題を解決します。

表 2 : Windows の場合

| 問題                                                            | 解決法                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| インストーラが起動しない                                                  | エラーメッセージを表示するには、 <b>setup.exe</b> の代わりに <b>setupConsole.exe</b> を実行します。                                                                                                                                                                                       |
| Windows 7、または Windows 2008 x86 64 ビット版でインストーラまたはアンインストーラが失敗する | インストーラまたはアンインストーラは、環境変数を設定できないと失敗する。この現象は、一般に、32 ビット版 (nt386) の SCC インストーラを 64 ビットマシンで使用した場合に起こる。<br><br>Windows エクスプローラで、 <b>setup.exe</b> 、 <b>setupConsole.exe</b> 、または <b>uninstall.exe</b> を右クリックして [プロパティ] を選択する。<br>[互換性] タブで、[Windows XP] 互換モードを選択する。 |
| SCC のインストール時にエラーが発生する                                         | 以下のエラーが発生したら、Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ ATL のセキュリティ更新プログラムをインストールする。詳細については、「システムの稼働条件 (5 ページ)」を参照のこと。<br><br>Windows error 140001 occurred while loading the Java VM                                                                |

## インストールのトラブルシューティング

| 問題                                    | 解決法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>インストール後に SCC が起動しない</p>            | <p>Windows 7、Windows 8、Windows 2008、および Windows 2012 Server では、SCC の初回起動時、管理者として実行する必要がある。管理者実行モードで Windows コマンドプロンプトを開いて SCC を起動するには:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [スタート]&gt;[ファイル名を指定して実行] を選択する。</li> <li>2. 「cmd」と入力し、[Ctrl+Shift+Enter] を押す。</li> <li>3. コマンドラインプロセッサによるコンピュータの設定変更を許可するかどうかを尋ねるダイアログボックスが開いたら、[はい] をクリックする。</li> <li>4. SCC を起動するには、「%SYBASE%\SCC-3_3\bin\scc.bat」または「C:\sap\SCC-3_3\bin\scc.bat」と入力する。</li> </ol> <p><b>注意:</b> 共有ディスクから実行中のインスタンスを開始する場合は、「%SYBASE%\SCC-3_3\bin\scc.bat -instance &lt;instance-name&gt;」または「C:\sap\SCC-3_3\bin\scc.bat -instance &lt;instance-name&gt;」と入力してください。</p> |
| <p>メモリ不足が原因で、インストール後に SCC を起動できない</p> | <p>次のエラーが表示されることがある。</p> <pre>Could not create the Java virtual machine.</pre> <p>SCC を実行しているマシンの最大ヒープサイズが SCC の初期のヒープサイズ (128MB) よりも小さい場合、SCC は起動できない。SCC が使用できるメモリを増やすには、<code>SCC_MEM_MAX</code> 環境変数をマシンに適した値に設定する。次に例を示す。</p> <pre>&gt; set SCC_MEM_MAX=512</pre> <p>このように設定することで、SCC を <code>scc</code> コマンドを使用して開始できる。SCC Windows サービスのメモリオプションの変更については、SCC オンラインヘルプの「使用開始にあたって」&gt;「Sybase Control Center の起動」&gt;「メモリ使用量の設定」を参照のこと。</p>                                                                                                                                                                                               |
| <p>スクリプトの実行が有効になっていない</p>             | <p>SAP Control Center に接続中に Running scripts is not enabled または同様のメッセージが表示された場合、次の項目での説明に従い、ブラウザのセキュリティ設定を緩和する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| 問題                                                      | 解決法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>SCC に接続することも、Adobe Flash Player をインストールすることもできない</p> | <p>Internet Explorer (IE) の拡張セキュリティ設定を含む強力なセキュリティ設定のブラウザでは、Flash Player をロードできない場合、SAP Control Center に接続できない。接続しようとすると、次のようなメッセージが表示されることがある。</p> <p>This content requires the Adobe Flash Player. Get Flash.</p> <p>場合によっては、Flash Player が必要であることが示されず、ブラウザのウィンドウに灰色のボックスのみが表示されることがある。</p> <p>SCC を使用できるように Flash Player をインストールするには、IE の ActiveX コントロールを含むブラウザのセキュリティ設定を緩和する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Flash Player をダウンロードするには、[Flash を入手] リンクをクリックするか、<a href="http://get.adobe.com/jp/flashplayer/">http://get.adobe.com/jp/flashplayer/</a> に移動する。</li> <li>ライセンス契約を確認し、[同意して今すぐインストール] をクリックする。ブラウザのセキュリティオプションが厳密すぎる場合は、Flash Player はインストールされない。</li> <li>Flash Player をインストールできるように、セキュリティのレベルを次のように変更する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Internet Explorer で [ツール] &gt; [インターネット オプション] &gt; [セキュリティ タブ] &gt; [インターネット] &gt; [レベルのカスタマイズ] をクリックする。<br/>[セキュリティ設定] ダイアログのほとんどのオプションでは、[無効にする]、[有効にする] を選択できるようになっている。また、多くの場合、[ダイアログを表示する] が選択できる。このオプションでは、機能を使用したり、説明されているアクションを実行する前に、ユーザの同意を求めるダイアログが IE によって表示される。ダイアログが無効になっているすべてのオプションを [有効にする] または [ダイアログを表示する] に設定すること。<br/>[ダイアログを表示する] の方が安全。</li> <li>Firefox では、[ツール] &gt; [オプション] &gt; [コンテンツ] および [ツール] &gt; [オプション] &gt; [セキュリティ] をクリックし、制限の少ない設定を選択する。</li> </ul> </li> <li>メインウィンドウに戻って、Flash Player のインストールページを再ロードする。Flash Player が自動的にインストールされ、インストールが完了すると、短い動画が再生される。</li> <li>SCC に接続して、ログインする。</li> </ol> |

表 3 : UNIX の場合

| 問題                                                     | 解決法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>インストーラを GUI モードで実行できない</p>                          | <ol style="list-style-type: none"> <li>SAP Java Runtime Environment (JRE) 7.1 に必要なオペレーティングシステムパッチがすべてインストールされていることを確認する。システムの稼働条件 (5 ページ) のパッチ要件を確認のこと。</li> <li>リモートマシンの UNIX プロンプトで次のコマンドを入力する。<br/><i>host_name</i> にはインストーラを表示するマシン (つまりローカルマシン) を指定する。<br/>C シェルの場合：<br/><pre>setenv DISPLAY host_name:0.0</pre><br/>Bourne シェルの場合：<br/><pre>DISPLAY=host_name:0.0; export DISPLAY</pre></li> </ol> |
| <p>インストールの失敗: メモリ不足を示すメッセージが表示される</p>                  | <p>データサイズの制限を <b>unlimited</b> に設定する。たとえば、UNIX シェルでは次のように入力する。</p> <pre>limit datasize unlimited</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>インストールが失敗し、ファイルシステムに空きがないという内容のメッセージが表示されることがある</p> | <p>インストーラを実行するために /tmp に十分な空き領域を作る。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>インストール後に SCC が起動しない</p>                             | <p><b>scc.sh</b> を実行する。UNIX での SAP Control Center の起動と停止 (37 ページ) を参照のこと。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| 問題                                    | 解決法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>メモリ不足が原因で、インストール後に SCC を起動できない</p> | <p>次のエラーが表示されることがある。</p> <pre>Could not create the Java virtual machine.</pre> <p>SCC を実行しているマシンの最大ヒープサイズが SCC の初期のヒープサイズ (128MB) よりも小さい場合、SCC は起動できない。SCC が使用できるメモリを増やすには、<code>SCC_MEM_MAX</code> 環境変数をマシンに適した値に設定する。次に例を示す。</p> <pre>bash\$ export SCC_MEM_MAX=512</pre> <p>これにより、<code>scc</code> コマンドで SCC を起動できるようになる。</p> <p>次のコマンドを SCC の起動前に実行するか、<code>SCC-3_3/bin/scc.sh</code> の先頭に追加することもできる。</p> <pre>ulimit -v 59326240</pre> <p>このコマンドによって、SAP Control Center が使用できる仮想メモリが増える。</p> <p>SCC UNIX サービスのメモリオプションの変更の詳細については、SCC の次のオンラインヘルプを参照すること。「使用開始にあたって」&gt;「Sybase Control Center の起動」&gt;「メモリ使用量の設定」</p> |
| <p>クライアントにサーバへの接続権限がない</p>            | <p>インストーラを起動したときに、次のエラーメッセージが表示された場合、作業中のローカルマシンにユーザインタフェースを表示するためのパーミッションをリモートマシンが持っていないことを意味する。</p> <pre>Xlib: connection to "host_name" refused by server Xlib: Client is not authorized to connect to Server xhost: unable to open display "host_name"</pre> <p>この問題を解決するには、次の手順に従う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ローカルマシンの UNIX プロンプトで次のコマンドを入力する。<br/>remote_machine にはインストーラを実行しているマシンを指定する。<br/><pre>xhost +remote_machine</pre></li> <li>インストーラを再起動する。</li> </ol>                                                                                                                                      |
| <p>スクリプトの実行が有効になっていない</p>             | <p>SAP Control Center に接続中に Running scripts is not enabled または同様のメッセージが表示された場合、以降の欄の Flash Player のインストールに関する項目での説明に従い、ブラウザのセキュリティ設定を緩和する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| 問題                                                      | 解決法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>SCC に接続することも、Adobe Flash Player をインストールすることもできない</p> | <p>強力なセキュリティ設定のブラウザでは、Flash Player をロードできない場合、SAP Control Center に接続できない。接続しようとする、次のようなメッセージが表示されることがある。</p> <p>This content requires the Adobe Flash Player. Get Flash.</p> <p>場合によっては、Flash Player が必要であることが示されず、ブラウザのウィンドウに灰色のボックスのみが表示されることがある。</p> <p>SCC を使用できるように Flash Player をインストールするには、ブラウザのセキュリティ設定を緩和する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Flash Player をダウンロードするには、[Flash を入手] リンクをクリックするか、<a href="http://get.adobe.com/jp/flashplayer/">http://get.adobe.com/jp/flashplayer/</a> に移動する。</li> <li>2. ライセンス契約を確認し、[同意して今すぐインストール] をクリックする。ブラウザのセキュリティオプションが厳密すぎる場合は、Flash Player はインストールされない。</li> <li>3. Flash Player をインストールできるように、セキュリティのレベルを次のように変更する。Firefox では、[ツール]&gt;[オプション]&gt;[コンテンツ]および [ツール]&gt;[オプション]&gt;[セキュリティ]をクリックし、制限の少ない設定を選択する。</li> <li>4. メインウィンドウに戻って、Flash Player のインストールページを再ロードする。Flash Player が自動的にインストールされ、インストールが完了すると、短い動画が再生される。</li> <li>5. SCC に接続して、ログインする。</li> </ol> |

# 索引

## C

csi\_config.xml ファイル 46

## F

Firefox 5

Flash Player 5, 43

## G

GUI モードでのインストール 15

## H

HTTP および HTTPS ポート、設定 15

## I

Internet Explorer 5

## J

Java 要件 6

JDBC ドライバ、インストール 31

JRE 要件 14

## L

Linux システム要件 5

## M

Microsoft Windows システム要件 5

## O

ODBC ドライバ  
登録 33

## P

passencrypt ユーティリティ 47

## S

SAP Control Center

Sybase Control Center へのブラウザの接続  
43

UNIX でのサービスとしての起動 37

UNIX での起動 37

UNIX での停止 37

Windows でのサービスとしての起動 33

Windows での起動 33

Windows での停止 33

概要 1

設定 49

ポート 7

SAP JRE 要件 6

SCC エージェント

UNIX でのサービスとしての起動 37

UNIX での起動 37

UNIX での停止 37

Windows でのサービスとしての起動 33

Windows での起動 33

Windows での停止 33

パスワードの設定 46

scc.bat 33

scc.sh 37

sccadmin アカウント

パスワードの設定 46

無効化 46

説明 43

sccd シェルスクリプト 37

Solaris システム要件 5

SSL 証明書 44

## U

uafadmin アカウント

パスワードの設定 46

無効化 46

UNIX

SCC または SCC エージェントの起動、停  
止 37

## 索引

- インストールの制限事項 8
- バックグラウンドでの SCC または SCC エージェントの実行 37
- フォアグラウンドでの SCC または SCC エージェントの実行 37

## W

### Windows

- インストールの制限事項 8
- 起動, SCC または SCC エージェントの停止 33

Windows XP との互換モード 16, 20

## あ

### アップグレード

- アップグレード後のロールバック 9
- 共有ディスクインスタンス用の手順 27
- 準備 9
- タスクフロー 3
- 手順 25

アンインストール 23

## い

インクリメンタルバックアップ  
有効化 48

インストール作業の流れ 3

### インストール手順

- GUI モード 15, 19
- アンインストール 23
- インストール前の作業 11
- 応答ファイル 19
- 計画 5
- コンソールモード 15, 19
- サイレントモード 21
- 制限事項 8
- トラブルシューティング 51
- 無人モード 21

インストールの制限事項 8

インストール前の作業 11

インストール後の作業 43

インストール後の設定 43

## え

エージェント

次を参照： SCC エージェント

## お

### 応答ファイル

- インストール 21
- 作成 19
- サンプル 19

オペレーティングシステムの要件 5

## か

管理者として実行、設定 16, 20, 21, 23  
管理対象サーバ、SCC とともにインストール 8

## こ

コンソールモードでのインストール 15

## さ

### サーバ

- アップグレード 25
- 共有ディスクインスタンス、リポジトリのマイグレーション 27
- シングルトン 25
- モニタリング上の制限 8
- リポジトリのマイグレーション 25

### サービス、UNIX

- SCC または SCC エージェントをサービスとして実行 37

### サービス、Windows

- SCC または SCC エージェントをサービスとして実行 33

サイレントモード インストール 21

## し

システムの稼働条件 5

集約インストール 8

## と

- ドライバ
  - JDBC、インストール 31
  - ODBC、登録 33
- トラブルシューティング 51

## は

- 配備環境 11
- パスワード
  - SCC デフォルトログインアカウント 43
  - デフォルトユーザアカウントで設定 46
  - 暗号化 47
- バックアップ、インクリメンタル
  - 有効化 48
- バックグラウンド、バックグラウンドでの SCC
  - または SCC エージェントの実行 37
- パッチ要件 6

## ひ

- 必要なディスク領域 7

## ふ

- フォアグラウンド、フォアグラウンドでの SCC
  - または SCC エージェントの実行 37
- ブラウザの要件 6
- プラットフォーム、サポート 5

## へ

- ヘルプシステム、アクセス 44, 49

## ほ

- ポート 7
  - 設定 15

## も

- 無人モードでのインストール 21

## ら

- ライセンス 5

## れ

- レプリケーション
  - JDBC ドライバ、インストール 31

## ろ

- ログイン SAP Control Center - 最初のユーザ 43
- ログインアカウント、デフォルト
  - パスワードの設定 46
  - 無効化 46
  - 説明 43

## わ

- ワークフロー、インストールおよびアップグレード 3

